

CVP-40-EVAL、CVP-40-DISTI、CVP-40-DART、CVP-41-EVAL、CVP-41-DIST-NFR、CVP-41-DART-NFR、CVP-70-EVAL、CVP-70-DIST-NFR と CVP-70-DART-NFR のライセンス問題のトラブルシューティング

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[CVP VoiceXML サーバに NFR が評価ライセンスを適用して下さい](#)

[CVP VoiceXML スタジオに NFR が評価ライセンスを適用して下さい](#)

[関連情報](#)

概要

CVP-40-EVAL を発注する顧客、CVP-40-DISTI、CVP-40-DART、CVP-41-EVAL、CVP-41-DIST-NFR、CVP-41-DART-NFR、CVP-70-EVAL、CVP-70-DIST-NFR および CVP-70-DART-NFR は [製品ライセンス登録](#) からライセンスキーの代わりに英数字ストリングを受け取ることができます。このドキュメントでは、ソフトウェアにライセンスを付与するため特殊な SKU に対して実行する必要がある追加の手順を説明します。

前提条件

要件

CVP-40-EVAL を、CVP-40-DISTI、CVP-40-DART、CVP-41-EVAL、CVP-41-DIST-NFR、CVP-41-DART-NFR、CVP-70-EVAL、CVP-70-DIST-NFR 発注しました、または CVP-70-DART-NFR は、[製品ライセンス登録](#) に行った、これらの形式の英数字キーのファイル受け取った Product Authorization Key (PAK) コードを受け取りました:

- CVP スタジオ 4.0
- CVP VXML サーバ 4.0

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報はこれらのコンポーネントに基づいています:

- Ciscoカスタマー 音声門脈 (CVP) スタジオ 4.0、4.1、か 7.0 評価 (EVAL) は、およびないのため転売 (投げ矢、DISTI) ただ認可します
- Ciscoカスタマー 音声門脈 (CVP) VoiceXML (VXML) サーバ 4.0、4.1、か 7.0 評価 (EVAL) は、およびないのため転売 (投げ矢、DISTI) ただ認可します

注: これは他のどの Ciscoカスタマー 音声門脈 (CVP) スタジオ 4.0 または Ciscoカスタマー 音声門脈 (CVP) VoiceXML (VXML) サーバ 4.0 SKUs にも適用しません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題

CVP-40-EVAL、CVP-40-DISTI、CVP-40-DART、CVP-41-EVAL、CVP-41-DIST-NFR、CVP-41-DART-NFR、CVP-70-EVAL、CVP-70-DIST-NFR および CVP-70-DART-NFR を発注するとき、[製品ライセンス登録](#)からライセンスキーの代わりに 2 本の英数字 コードを受け取ることができます。オペレーション、管理、管理およびプロビジョニング (ライセンスをインストールする OAM&P) パネルを使用するために試みればはたきません。

解決策

[製品ライセンス登録](#)からライセンスを受け取った後 CVP 4.0 の既知の問題が原因で、SKUs を認可するための追加手順に従う必要があります。

完全な本番および開発ライセンスとは違って、ないのため転売 (NFR) および評価 SKU ライセンスは[製品ライセンス登録](#)からのライセンスキーとして郵送されません。顧客はソフトウェアに入るために英数字 ID 番号を受け取ります。これらの SKU 型に関しては、異なるステップは踏む必要があります; それらは別の方式で CVP 両方 VoiceXML サーバおよび CVP VoiceXML スタジオに加えらる必要があります。

これらのセクションは英数字 コードのソフトウェアをアクティブにするために必要である追加手順を記述します。

CVP VoiceXML サーバに NFR が評価ライセンスを適用して下さい

CVP VoiceXML サーバに NFR が評価ライセンスを適用するためにこのプロシージャを行って下さい:

1. Notepad のようなテキストエディタのライセンス テキストファイルを、開いて下さい。
2. 形式 (7 文字のブロック、そして 5、5、および 7) のインストールキーをコピーして下さい

;これは CVP VoiceXML サーバインストール キーの形式です。他の形式のキーは他の製品のためです。ライセンス テキストファイルは複数のインストールキーが含まれている場合があることに注目して下さい。

3. CVP VoiceXML サーバを時どちらかの開始するインストールされているまたはとき WebSphere のちょうど CVP VoiceXML サーバ Webアプリケーションを、たとえば、開始するアプリケーションサーバ開始して下さい。
4. Webブラウザでは、IP がアプリケーションサーバの IP アドレスである、ポートが受信するポートである URL <http://IP:PORT/CVP/Licensing> を参照すれば。
5. そうするためにプロンプト表示された場合ログインして下さい。注: デフォルトのユーザ名は **admin** であり、デフォルトパスワードは **パスワード** です。この認証情報は **AUDIUM_HOME/conf** ディレクトリのファイル **login.properties** によって確認されおよび/または修正することができます。CVP VoiceXML サーバが再起動するときだけ **login.properties** 効果に変更します。
6. スクリーン上の指示を読み、次に『Next』をクリックして下さい。
7. 適切なフィールドにインストールキーを貼り付けて下さい。注: 再びタイプすることに対して強くコピー アンド ペーストします、使用するよう勧められます。
8. CVP VoiceXML サーバ マシンにインターネットアクセスがアクセスできる場合、**アクティベーション Mode ドロップダウン ボックス**から『Automatic』を選択して下さい。さもなければ、『Manual』を選択して下さい。後のオプションは自動アクティベーションがネットワーク接続問題、たとえば、ファイアウォールまたはプロキシが原因で失敗した場合また役立ちます。[Next] をクリックします。
9. **自動なら**選択されましたり、これらの手順に従います:この CVP VoiceXML サーバの例がサポートする必要がある同時に行われるセッションの望ましい番号を入力して下さい。たとえば、インストールキーは 20 セッションのために発行し 10 セッションが 2 つのサーバのそれぞれで利用されること彼らはそのような物分けることができます。[Activate] をクリックします。成功 メッセージ ディスプレイ。実施されるために新しいライセンスのための CVP VoiceXML サーバを再起動して下さい。自動アクティベーションが失敗した場合、手動アクティベーションを (次のステップを参照して下さい) 代わりに試みて下さい。
10. **Manual** が選択された場合、これらの手順に従って下さい:[Audium 手動ソフトウェアのアクティベーション](#)を参照して下さい。ドロップダウン製品から **Audium コール サービス 3.6** を選択して下さい。この製品は同じライセンス価格体系を使用します。インストールキーをコピー アンド ペーストすれば CVP VoiceXML サーバソフトウェア アクティベーションからのシステム ID は手動アクティベーション形式にコンソール接続を行います。このサポートする CVP VoiceXML サーバの例が必要がある同時に行われるセッションの数を入力して下さい。**SUBMIT ボタン**をクリックして下さい。Webページの下部ののフィールドのライセンス テキスト表示のブロック。ソフトウェアのアクティベーション コンソールの対応したフィールドにライセンス テキストをコピー アンド ペーストして下さい。すべての文字がきちんと選択されるようにするのに **Edit メニュー**からの『All』を選択 オプションがコピー前に使用されていることを推奨します。1 文字の違いによりアクティベーションは失敗します。ソフトウェアのアクティベーション コンソールは今これに類似しています:ソフトウェアのアクティベーション コンソールで、『Activate』をクリックして下さい。成功 メッセージ ディスプレイ。実施されるために新しいライセンスのための CVP VoiceXML サーバを再起動して下さい。

[CVP VoiceXML スタジオに NFR が評価ライセンスを適用して下さい](#)

CVP VoiceXML スタジオに NFR が評価ライセンスを適用するためにこのプロシージャを行って下さい。

1. Notepad のようなテキストエディタのライセンス テキストファイルを、開いて下さい。
2. 形式 (5 文字の 5 つのブロック) のインストールキーをコピーして下さい; これは CVP VoiceXML スタジオ インストールキーの形式です。他の形式のキーは他の製品のためです。ライセンス テキストファイルは複数のインストールキーが含まれている場合があることに注目して下さい。
3. CVP VoiceXML スタジオを開始すれば、**アクティベーション...ダイアログ**を表示する。
4. 適切なフィールドにインストールキーを貼り付けて下さい。再びタイプすることに対して強くコピー アンド ペーストします、使用するよう勧められます。
5. **アクティブ化 >>** ボタンをクリックして下さい。
6. CVP VoiceXML スタジオ マシンにインターネットアクセスがアクセスできる場合、**オンライン アクティベーション オプション** ボタンをクリックして下さい。さもなければ、**アクティベーション**を『Manual』を選択して下さい。後のオプションはオンライン アクティベーションがネットワーク接続問題、たとえば、ファイアウォールまたはプロキシが理由で失敗した場合また役立ちます。
7. **オンライン アクティベーション**が選択された場合、これらの手順に従って下さい:**Activate** ボタンをクリックすれば、**アクティベーション正常な**通知が表示する時以降。『OK』をクリックすれば、CVP VoiceXML スタジオはロードし続けます。それは今認可されます。自動アクティベーションが失敗した場合、**手動アクティベーション**を (次のステップを参照して下さい) 代わりに試みて下さい。
8. **手動アクティベーション**が選択された場合、これらの手順に従って下さい:[Audium 手動ソフトウェアのアクティベーション](#)を参照して下さい。ドロップダウン製品から **Audium スタジオ 5** を選択して下さい。この製品は同じライセンス価格体系を使用します。手動アクティベーション形式に CVP VoiceXML スタジオの**アクティベーション...ダイアログ**からのインストールキーおよびシステム ID をコピー アンド ペーストして下さい。注: このデータが丁度コピーされるようにして下さい; 再びタイプすることに対して強くコピー アンド ペーストします、使用するよう勧められます。**SUBMIT** ボタンをクリックして下さい。Web ページの下部ののフィールドのライセンス テキスト表示のブロック。 **アクティベーション...ダイアログ**の対応したフィールドにライセンス テキストをコピー アンド ペーストして下さい。すべての文字がきちんと選択されるようにするのに **Edit** メニューからの『All』を選択 オプションがコピー前に使用されていることを推奨します。1 文字の違いによりアクティベーションは失敗します。ダイアログは今これに類似しています:**Activate** ボタンをクリックすれば、**アクティベーション正常な**通知が表示する時以降。『OK』をクリックすれば、CVP VoiceXML スタジオはロードし続けます。それは今認可されます。

アップグレードされるマシンが CVP VoiceXML スタジオが含まれている場合、ライセンスを適用するためにこれらのステップを実行して下さい:

注: 適用されるべきライセンスがないのため転売セクション NFR アクティベーション ステップについては参照しなさい (NFR) または評価ライセンスである場合。

1. CVP VoiceXML スタジオははじめて開始するとき、**アクティベーション...ダイアログ**ボックスを表示する。
2. このインストールに適用されるライセンス テキストファイルを開いて下さい; もし必要なら、1 つを得るために[製品ライセンス登録](#)を参照して下さい。インストールキーはラベル **InstallationKey** の後でこのファイルで、見つけれられる最初の情報です: (このイメージの強調表示されたセクションを参照して下さい)。インストールキーが形式 (5 文字の 5 グループ) にあるようにして下さい。他の形式は他の製品のためです。
3. ライセンス テキストファイルの情報他はライセンスキー テキストです。ライセンスキー テキストはラベル **LicenseKey** の後ですべての文字で構成されます: (このイメージの強調

表示されたセクションを参照して下さい)。

4. インストールキーを入力して下さい (**アクティベーション...ダイアログ**の一致するフィールドへの 2) ステップから。
5. **アクティブ化 >>** ボタンをクリックして下さい。
6. **手動アクティベーション オプション** ボタンを選択して下さい。
7. **ライセンスキー** テキストを貼り付けて下さい (**ライセンスキー**への 3) ステップから: テキスト領域。ダイアログは今このイメージに類似しています。
8. **Activate** ボタンおよび**アクティベーション成功した通知** デisplayをクリックして下さい。『OK』 をクリック すれば、CVP VoiceXML スタジオはロードし続けます。それは今認可されます。
9. CVP VoiceXML スタジオに以前にエクスポートされたプロジェクトをインポートして下さい。インポート プロセスは CVP 4.0 形式に自動的にそれらを、必要ならばアップグレードします。ワークスペース オプションに**既存の Cisco Unified CVP プロジェクト**を選択することを忘れないでいて下さい。統一された CVP 4.0 に新しい Subdialog 要素があります。変換の中では、新しい Subdialog 終了要素は自動的に要素の上のハングがもはや必要ではないので Subdialog 端の組み合わせを取り替え、Cisco インポートされた CVP 3.1 プロジェクトでハングアップします。**注:** アプリケーションが出典 リポジトリからチェックされれば (ファイル システムからインポートされる) よりもむしろ変換プロセスを開始するために、それらのアプリケーションはまだ CVP VoiceXML スタジオプロジェクトとして再インポートする必要があります。インポートが、各プロジェクトのすべてのファイル修正されたと考えられたおよびリポジトリでアップデートされる必要があつて下さい後さらに、なぜなら最初のチェックイン。

[関連情報](#)

- [Cisco Unified Customer Voice Portal サポート](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)